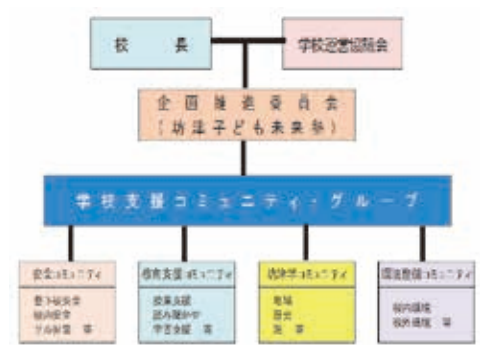


コミュニティ・スクールを基盤とした義務教育学校の充実

鹿児島県南さつま市	● 活動名	坊津学園学校運営協議会	● 関係する学校名	南さつま市立坊津学園

設置年度	平成 25 年度	学級数	10 学級	児童・生徒数	132 人
学校運営協議会の委員数	10 人	学校運営協議員の属性	現PTA会長 現PTA副会長 元PTA会長 元栗野小PTA会長 前大浦支所長 元坊津支所長 坊津地区主任児童委員 有識者3人		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	無				
参考 URL	http://www.minamisatsuma.ed.jp/bounotsugakuen/				

● 体制図



● 連絡先	南さつま市立坊津学園	☎ 0993-67-0011
-------	------------	----------------

- 活動の概要・経緯
- 平成22年4月、4小学校・2中学校が施設分離型小中一貫校として再編（小1・中1）し、平成25年4月、新校舎での施設一体型小中一貫校の開校を機に、鹿児島県で初のコミュニティ・スクールとしてスタートした。
 - 学校運営協議会の年6回開催、土曜授業日の土曜委員会（委員の研修会）の開催、学校支援コミュニティ・グループとして4グループ（安全、教育支援、坊津学、環境整備）の設置など、コミュニティ・スクールの組織化に努めた。
 - 土曜授業や特例教科「坊津学（地域に学ぶ・歴史に学ぶ・海に学ぶ）」では、東京大学アライアンスセンターとの連携や学校支援コミュニティ・グループの協力を得て、地域人材、地域資源を活用した、より専門的な教育活動を展開し、地域とともにある学校づくりを推進している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 《安全コミュニティグループ》 スクールガード・リーダー、スクールガード、110番の家で構成され、毎日の登下校指導、交通安全教室・不審者対応訓練などを通して、児童・生徒が学校生活を安全・安心に過ごせる支援をしている。
- 《教育支援コミュニティグループ》 高校生学習支援グループ、書道教室、読み聞かせグループなどで構成され、算数・図工・書写・各行事などの授業で児童・生徒がより質の高い充実した授業を受けることができる支援をしている。
- 《坊津学コミュニティグループ》 農協や漁協、NPO 団体、元気づくり委員会（地域活性化委員会）など各種団体で構成され、特例教科「坊津学」を通して、珊瑚の養殖、スキューバダイビング体験、カヌー体験など、児童・生徒がふるさと坊津について学習できる支援をしている。
- 《環境整備コミュニティグループ》 おやじの会、生け花グループなどで構成され、校内外の除草、花壇の整備、校内の生け花の設置など、児童・生徒が学校生活を快適に過ごせる支援をしている。

【実施にあたっての工夫】

- CSコーディネーターとして学校運営協議会と学校職員を各1名配置し、学校と各コミュニティ・グループとの窓口を一本化した。
- CSコーディネーターが中心となって地域の人材・資源の発掘や学校と学校支援コミュニティの連絡調整のために企画推進委員会を年2回計画し、実効ある運営をしている。
- 学校運営協議会と直結した学校支援コミュニティ・グループの各種活動をCS便り（年6回）や学校便り（毎月）、ホームページ等を利用して地域・保護者に周知した。
- 専用のコミュニティルームを設置し、恒常的な活動が展開されている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 学校運営に対する学校運営協議会委員の意識が高まり、教育活動に対して様々な視点からの意見等が出され、保護者・地域の声を反映した学校運営がなされている。
- 学校支援コミュニティ・グループを通して、様々な教育活動に保護者、地域住民が当事者意識を持って関わる機会が増え、地域とともにある学校づくり、充実した教育活動が展開されている。
- 特例教科「坊津学」では、東京大学アライアンスセンターとの連携や地域の人材・資源を活用することで、児童・生徒が地域のよさを再発見し、ふるさとに誇りを持ち、郷土を愛する心が育まれている。
- 「元気づくり委員会」の協力を得て地域公民館で実施した宿泊学習など、地域が学習の場、キャンパスとなるなど、町づくりの一助ともなっている。

● その他

本校は、平成 29 年 4 月に鹿児島県で初の義務教育学校として開校した。特例教科「坊津学」の「海に学ぶ」の領域では、東京大学アライアンスセンターと協定書を交わし、特色ある海洋教育カリキュラムの研究・実践を平成 28 年度から行っている。



学校プールでのダイビング体験（土曜授業、鹿児島水産高校協力）



4年宿泊学習 飯ごう炊飯等（地元元気づくり委員会協力）

ポイント

コーディネーターが中核になってがんばっていますね。学校支援をより効果的・効率的にするため、地域のさらに多くの方に学校に関わってもらえるような仕掛けを企画してみてください。